

日泰離反に専ら汲々

伯國市マニラ
カレン街一〇九
日新報社
電話二六六
外埠郵費共計五



失地回復の好餌掲げ

英の奸策益々露骨化

わが方事態の発展を重視



領土回復の注目されて

極東正に爆發寸前

いよいよ、歴史的週間に入る

英紙、大々的に報道

及川海相

参内

【東京九日電】及川海相は八日午前、天皇陛下に拜謁し、所管事項を奏上、種々御下問に奉答して御前を退られた。

浦鹽武装解除

わが對ソ要求は虚報

【モスクワ九日電】外務人民委員長は、ソ連政府に對して、浦鹽の武装解除を要求した。これは、ソ連政府が、浦鹽の武装解除を要求した。これは、ソ連政府が、浦鹽の武装解除を要求した。

心理的爆撃を狙ふ

戦略家ヒトラーの謎を解く

英評論家 リッデル・ハート



統帥ハート

【はしがき】以下は英の著名な軍事評論家リッデル・ハートが「ヒトラーの謎」を著した。ヒトラーの心理的爆撃の手法は、敵の心を動かすことである。ヒトラーは、敵の心を動かすことである。ヒトラーは、敵の心を動かすことである。

戦局最後の段階へ

隨所に赤軍を粉砕

南部戦線でも死命完制



赤軍の進軍は、南部戦線でも死命完制

わが南進を毀つ

英米側の敵性出版物

國民新聞の強論

【東京九日電】政府は、英米側の敵性出版物「國民新聞」の強論を、わが南進を毀つと攻撃している。

對日接近、國府に協力

佛側の態度一變

佛印に國府代表派遣必至

【サイゴン九日電】東日特使は、佛印に國府代表派遣必至と見せかけている。佛印の態度は一變し、對日接近の動きがある。

泰灣出沒の英艦

突止千萬元武力示威

實は戰傷修理中のもの

【上海九日電】最近英海軍は、泰灣に英艦を出動させた。これは、突止千萬元の武力示威である。

カナダ太平洋汽船

在日支店を一齊閉鎖

在日支店を一齊閉鎖

【東京九日電】カナダ太平洋汽船は、在日支店を一齊閉鎖した。これは、在日支店を一齊閉鎖した。

雪氷踏んで死闘

ソ芬國境も殆んど制壓

ソ芬國境も殆んど制壓

【モスクワ九日電】ソ連軍は、ソ芬國境を制圧した。これは、ソ芬國境も殆んど制壓した。

赤機破一万台

赫々たる戦果発表

赫々たる戦果発表

【パリ九日電】フランス軍は、赤機破一万台の戦果を発表した。これは、赫々たる戦果を発表した。

英空軍

希臘を空襲

希臘を空襲

【ロンドン九日電】英空軍は、希臘を空襲した。これは、希臘を空襲した。

汪政府の機關紙

中華日報へ投擲

中華日報へ投擲

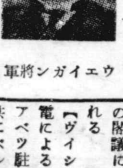
【上海九日電】汪精衛政府は、中華日報に投擲した。これは、中華日報へ投擲した。

佛領アフリカを繞る

對獨讓歩説を否定

對獨讓歩説を否定

【ワシントン九日電】フランス政府は、佛領アフリカを繞る。これは、對獨讓歩説を否定した。



主席シム

副主席ラム

主席シム

主席シム

代表の資格なく軍に加入して列強に與つたもの。これは、代表の資格なく軍に加入して列強に與つたもの。

葡萄牙特派大使 伯國大統領に謁見 本國政府親書、勳章を傳達

【ワシントン十一日U.P.】ポルトガル特派大使、官邸守衛兵一隊を率いて、伯國大統領官邸に謁見し、本國政府親書を呈し、勳章を傳達した。大使は、伯國大統領に、ポルトガル政府の親善政策を説明し、伯國大統領は、ポルトガル政府の親善政策を高く評価し、伯國政府の親善政策を高く評価した。大使は、伯國大統領に、ポルトガル政府の親善政策を説明し、伯國大統領は、ポルトガル政府の親善政策を高く評価し、伯國政府の親善政策を高く評価した。

ブラジルへ入國の 流浪の民ユダヤ人 本年上五ヶ月に七百名余

【リオデジャネイロ九日A.N.】本日の移民統計によると、ブラジルへ入國したユダヤ人の数は、本年上五ヶ月間に七百名余に達した。これは、前年同期に比べて、約二割増しの数字である。ユダヤ人の入國は、主にブラジルの東部沿岸部に集中している。彼らは、主にブラジルの東部沿岸部に集中している。彼らは、主にブラジルの東部沿岸部に集中している。

物價騰貴に悩む 南大河州の市民 州政府、對策を考慮

【ポルトアレグレ八日】最近、南大河州の物價が急激に騰貴し、市民は生活に悩まされている。州政府は、物價騰貴の對策を考慮している。州政府は、物價騰貴の對策を考慮している。州政府は、物價騰貴の對策を考慮している。

政府機關紙 ア・マニヤン 颯爽として登場

【リオデジャネイロ九日A.N.】今日のリオデジャネイロの新聞界は、ア・マニヤンが政府機關紙として登場したことに注目している。ア・マニヤンは、颯爽とした印象を与えている。ア・マニヤンは、颯爽とした印象を与えている。

汎ソ口野球大會 ブルデンテ6對5 マツヤード5

去る十日より汎ソ口に於ける汎ソ口野球大會の結果、ブルデンテが6對5でマツヤードを破った。この試合は、両チームともに奮戦した。ブルデンテは、マツヤードを破った。

英米ソ結束に對抗 樞軸側も近く會議 軍事力強化へ万全策

【ロンドン十日U.P.】英米ソの結束に對抗し、樞軸側も近く會議を開くことが報じられている。軍事力の強化に万全策を講じている。樞軸側は、英米ソの結束に對抗し、軍事力の強化に万全策を講じている。

外國人登録 呼出し番號

八月十二日(火曜)午前七時
八月十三日(水曜)午前七時
八月十四日(木曜)午前七時
八月十五日(金曜)午前七時
八月十六日(土曜)午前七時
八月十七日(日曜)午前七時

米國産の工業資材 米洲各國には優先輸出

【ワシントン十一日U.P.】米國産の工業資材は、米洲各國に優先して輸出されることになった。これは、米國産の工業資材の需要が増えているためである。米國産の工業資材の需要が増えているためである。

急募 一年齡二十歳より三十歳まで 一、セラアリスに經驗を有する事 農産物賣買實務に従事する方 右至急入用に付希望の御方は左記 へ履歷書持参御來談を乞ふ

サンパウロ市アナンガバウ街一〇九五番
農産物商會社
Produtos Agricolas Ltda.
Cereais por atacado
Rua Anhangabau, 1095-1103 - S. Paulo

大賣出
冬物棚ざらへ
春向新柄物紹介
二十日迄特價提供
ロージヤ・キイト
Loja Flito.
本店(合併)の爲二十日迄特別大割引致します

高級蓄音機
肝油ハリバ
吉雄商會
蓄音機部

齒科
Dr. Estacio de Sa
R. D. Pedro II, 75
R. S. and S. 12 - Paulista
診療は絶対保証

貯金箱
泉川製作所
Dr. Estacio de Sa

南大河州水害救済 義捐金寄附者芳名

(第十二回)

一、 鈴木 一郎	二、 田中 三郎	三、 山田 五郎	四、 佐藤 七郎	五、 高橋 九郎
六、 渡辺 十一郎	七、 伊藤 十三郎	八、 木村 十五郎	九、 藤田 十七郎	十、 松本 十九郎
十一、 石川 二十一郎	十二、 清水 二十三郎	十三、 山崎 二十五郎	十四、 斎藤 二十七郎	十五、 高木 二十九郎
十六、 橋本 三十一郎	十七、 坂本 三十三郎	十八、 田村 三十五郎	十九、 佐々木 三十七郎	二十、 鈴木 三十九郎
二十一、 山田 四十一郎	二十二、 佐藤 四十三郎	二十三、 高橋 四十五郎	二十四、 渡辺 四十七郎	二十五、 伊藤 四十九郎
二十六、 木村 五十一郎	二十七、 藤田 五十三郎	二十八、 松本 五十五郎	二十九、 石川 五十七郎	三十、 清水 五十九郎
三十一、 山崎 六十一郎	三十二、 斎藤 六十三郎	三十三、 高木 六十五郎	三十四、 橋本 六十七郎	三十五、 坂本 六十九郎
三十六、 田村 七十一郎	三十七、 佐々木 七十三郎	三十八、 鈴木 七十五郎	三十九、 山田 七十七郎	四十、 佐藤 七十九郎
四十一、 高橋 八十一郎	四十二、 渡辺 八十三郎	四十三、 伊藤 八十五郎	四十四、 木村 八十七郎	四十五、 藤田 八十九郎
四十六、 松本 九十一郎	四十七、 石川 九十三郎	四十八、 清水 九十五郎	四十九、 山崎 九十七郎	五十、 斎藤 九十九郎
五十一、 高木 一〇十一郎	五十二、 橋本 一〇三郎	五十三、 坂本 一〇五郎	五十四、 田村 一〇七郎	五十五、 佐々木 一〇九郎
五十六、 鈴木 一一十一郎	五十七、 山田 一一十三郎	五十八、 佐藤 一一五郎	五十九、 高橋 一一七郎	六十、 渡辺 一一九郎
六十一、 伊藤 一二十一郎	六十二、 木村 一二三郎	六十三、 藤田 一二五郎	六十四、 松本 一二七郎	六十五、 石川 一二九郎
六十六、 清水 一三十一郎	六十七、 山崎 一三十三郎	六十八、 斎藤 一三五郎	六十九、 高木 一三七郎	七十、 橋本 一三九郎
七十一、 坂本 一四十一郎	七十二、 田村 一四三郎	七十三、 佐々木 一四五郎	七十四、 鈴木 一四七郎	七十五、 山田 一四九郎
七十六、 佐藤 一五十一郎	七十七、 高橋 一五三郎	七十八、 渡辺 一五五郎	七十九、 伊藤 一五七郎	八十、 木村 一五九郎
八十一、 藤田 一六十一郎	八十二、 松本 一六三郎	八十三、 石川 一六五郎	八十四、 清水 一六七郎	八十五、 山崎 一六九郎
八十六、 斎藤 一七十一郎	八十七、 高木 一七三郎	八十八、 橋本 一七五郎	八十九、 坂本 一七七郎	九十、 田村 一七九郎
九十一、 佐々木 一八十一郎	九十二、 鈴木 一八三郎	九十三、 山田 一八五郎	九十四、 佐藤 一八七郎	九十五、 高橋 一八九郎
九十六、 渡辺 一九十一郎	九十七、 伊藤 一九三郎	九十八、 木村 一九五郎	九十九、 藤田 一九七郎	一百、 松本 一九九郎

法律百種の指針書

伯國生れの十八歳未満の出國手續
歸國再渡航手續等は手續官廳近く
に付至極便利すから責任をもつ
て迅速に御世話が出来ます

ホテル太陽

ルネッサンスビルより一〇〇米
サンパウロ市より一〇〇米
電話四二四四、四二四三、四二四二、四二四一

發起者 伯刺西爾時報社
南米新報社
ブラジル朝日新聞社
在伯大日本帝國大使館
在伯各帝國領事館



日伯交歡の一夜 饗應役は石射さん



陸相を主賓に 盛大な晩餐會

總人口七百五十万 脹れ行く西部地帯

聖州人口動態 國勢調査 から見た

サンパウロ軍の布陣 本年度役員決る

全伯野球サンパウロ地方豫選 球衣、熱汗に凄壯 セントラル輝く征覇

波瀾万丈 この一戦 コチャ恨みを呑む

殺人的暑熱續く ソノラ沙漠で七人の男女湯死

遂に年貢納めた 紳士スリ團

山口縣人會 第四定期總會

第一日(九日) 戦績

聖州地方 聖州地方

レコードは コムパニ時代

Table with columns for player names and statistics (runs, hits, errors).

Table with columns for player names and statistics (runs, hits, errors).

ARMAZEM KAIKO LTD. SÃO PAULO

Armazem Kaiko Ltda. Seção de Adubos Caixa Postal, 1602 - São Paulo

Dr. G. Calasans Cirurgião Dentista

青年 一三名 求 中央銀行カテドラル

七九番 だるま食堂 電話 二二五七八

経済と産業

一九四〇年度 聖州陸路交易額 三九年度に比し二万三千万増

一九四〇年度聖州の陸路輸出入額は、前年度に比し二万三千万増の二億九千九百九十九万五千七百九十九ドルに達した。これは前年度に比し二万三千万増の二億九千九百九十九万五千七百九十九ドルに達した。これは前年度に比し二万三千万増の二億九千九百九十九万五千七百九十九ドルに達した。

品名	一九三九年	一九四〇年
第一、四半期	一億八千九百九十九万五千七百九十九	一億九千九百九十九万五千七百九十九
第二、三半期	一億九千九百九十九万五千七百九十九	二億九千九百九十九万五千七百九十九
計	三億八千九百九十九万五千七百九十九	四億八千九百九十九万五千七百九十九

最近五ヶ年 石炭採掘高

一九四〇年度の石炭採掘高は、前年度に比し一億九千九百九十九万五千七百九十九トンに達した。これは前年度に比し一億九千九百九十九万五千七百九十九トンに達した。これは前年度に比し一億九千九百九十九万五千七百九十九トンに達した。

年	採掘高 (トン)
一九三五年	一億九千九百九十九万五千七百九十九
一九三六年	二億九千九百九十九万五千七百九十九
一九三七年	三億九千九百九十九万五千七百九十九
一九三八年	四億九千九百九十九万五千七百九十九
一九三九年	五億九千九百九十九万五千七百九十九
一九四〇年	六億九千九百九十九万五千七百九十九

北伯地方の 棉花輸出高

一九四〇年度の北伯地方の棉花輸出高は、前年度に比し一億九千九百九十九万五千七百九十九トンに達した。これは前年度に比し一億九千九百九十九万五千七百九十九トンに達した。これは前年度に比し一億九千九百九十九万五千七百九十九トンに達した。

年	輸出高 (トン)
一九三五年	一億九千九百九十九万五千七百九十九
一九三六年	二億九千九百九十九万五千七百九十九
一九三七年	三億九千九百九十九万五千七百九十九
一九三八年	四億九千九百九十九万五千七百九十九
一九三九年	五億九千九百九十九万五千七百九十九
一九四〇年	六億九千九百九十九万五千七百九十九

煙草輸出高

一九四〇年度の煙草輸出高は、前年度に比し一億九千九百九十九万五千七百九十九トンに達した。これは前年度に比し一億九千九百九十九万五千七百九十九トンに達した。これは前年度に比し一億九千九百九十九万五千七百九十九トンに達した。

年	輸出高 (トン)
一九三五年	一億九千九百九十九万五千七百九十九
一九三六年	二億九千九百九十九万五千七百九十九
一九三七年	三億九千九百九十九万五千七百九十九
一九三八年	四億九千九百九十九万五千七百九十九
一九三九年	五億九千九百九十九万五千七百九十九
一九四〇年	六億九千九百九十九万五千七百九十九

アメリカの兵隊は どれだけ喰ふか

アメリカの兵隊は、一日にどれだけの食糧を必要とするか。これは前年度に比し一億九千九百九十九万五千七百九十九トンに達した。これは前年度に比し一億九千九百九十九万五千七百九十九トンに達した。これは前年度に比し一億九千九百九十九万五千七百九十九トンに達した。

品名	数量
小麦	一億九千九百九十九万五千七百九十九
牛肉	二億九千九百九十九万五千七百九十九
鶏肉	三億九千九百九十九万五千七百九十九
魚	四億九千九百九十九万五千七百九十九
野菜	五億九千九百九十九万五千七百九十九
果物	六億九千九百九十九万五千七百九十九

一九四〇年北米合衆國對中南米諸國貿易統計

品名	一九四〇年	一九三九年	比較増減
小麦	一億九千九百九十九万五千七百九十九	一億九千九百九十九万五千七百九十九	+
牛肉	二億九千九百九十九万五千七百九十九	二億九千九百九十九万五千七百九十九	+
鶏肉	三億九千九百九十九万五千七百九十九	三億九千九百九十九万五千七百九十九	+
魚	四億九千九百九十九万五千七百九十九	四億九千九百九十九万五千七百九十九	+
野菜	五億九千九百九十九万五千七百九十九	五億九千九百九十九万五千七百九十九	+
果物	六億九千九百九十九万五千七百九十九	六億九千九百九十九万五千七百九十九	+
砂糖	七億九千九百九十九万五千七百九十九	七億九千九百九十九万五千七百九十九	+
銅	八億九千九百九十九万五千七百九十九	八億九千九百九十九万五千七百九十九	+
鉄	九億九千九百九十九万五千七百九十九	九億九千九百九十九万五千七百九十九	+
石油	一億九千九百九十九万五千七百九十九	一億九千九百九十九万五千七百九十九	+
その他	二億九千九百九十九万五千七百九十九	二億九千九百九十九万五千七百九十九	+
計	三億九千九百九十九万五千七百九十九	三億九千九百九十九万五千七百九十九	+

一九四〇年北米合衆國對中南米諸國貿易統計 (続)

品名	一九四〇年	一九三九年	比較増減
大豆	一億九千九百九十九万五千七百九十九	一億九千九百九十九万五千七百九十九	+
綿花	二億九千九百九十九万五千七百九十九	二億九千九百九十九万五千七百九十九	+
羊毛	三億九千九百九十九万五千七百九十九	三億九千九百九十九万五千七百九十九	+
皮革	四億九千九百九十九万五千七百九十九	四億九千九百九十九万五千七百九十九	+
木材	五億九千九百九十九万五千七百九十九	五億九千九百九十九万五千七百九十九	+
紙	六億九千九百九十九万五千七百九十九	六億九千九百九十九万五千七百九十九	+
機械	七億九千九百九十九万五千七百九十九	七億九千九百九十九万五千七百九十九	+
電機	八億九千九百九十九万五千七百九十九	八億九千九百九十九万五千七百九十九	+
化学	九億九千九百九十九万五千七百九十九	九億九千九百九十九万五千七百九十九	+
医薬	一億九千九百九十九万五千七百九十九	一億九千九百九十九万五千七百九十九	+
その他	二億九千九百九十九万五千七百九十九	二億九千九百九十九万五千七百九十九	+
計	三億九千九百九十九万五千七百九十九	三億九千九百九十九万五千七百九十九	+

感胃は A-Oは感胃 預防に絶対的特効薬

胃腸の健康は、人生の幸福の鍵。A-Oは、胃腸の健康を維持するための絶対的特効薬。感胃の予防に、A-Oは最も効果的です。

原伯商社

旭額縁店

各種額縁の製作・修理。品質優良、価格公道。お気軽にご相談ください。

旭額縁店

果樹苗

各種果樹の苗木を販売中。品種豊富、品質優良。お求めやすい価格です。

果樹苗

温泉

癒しの温泉。自然の恵みを感じ、心身を癒してください。

温泉

角田幸一郎

角田幸一郎の最新作。感動の物語、必読の書です。

角田幸一郎

三浦愛善堂

三浦愛善堂の最新商品。健康と美容のための必需品です。

三浦愛善堂

藤井兄弟商會

藤井兄弟商會の最新商品。品質と価格の両方を重視しています。

藤井兄弟商會

マセード・中村合資會社

マセード・中村合資會社の最新商品。最新のテクノロジーを駆使しています。

マセード・中村合資會社

A Inglaterra deseja construir bases militares no território tailandês

Em troca, o governo de Londres teria prometido a devolução dos antigos territórios tailandeses — O Tailand não cede à ameaça britânica — Não houve protesto pelo reconhecimento do Mandchukuo — A atitude dos círculos oficiais de Tokyo — Ingleses e Norte-Americanos deixam Saigon — Declarações do almirante Decoux — A colaboração econômica nipo-indochinesa — A França reconhecerá o governo de Nankin

BANGKOK, 9 (D.) — Os ingleses sentindo-se ameaçados pelo avanço pacífico das forças japonesas na Indochina, estão se esforçando desesperadamente para relacionar o fato com a defesa do Tai. Segundo informações de fonte fidedigna, o governo inglês propôs ao do Tai o estabelecimento de bases militares inglesas em território tailandês. Esta proposta inglesa parece ser uma contra-medida para enfrentar o avanço japonês na Indochina. O governo inglês, em troca, teria declarado que estava pensando na possibilidade de devolver os territórios tailandeses da Burma e Malala. Essa é aliás a velha política da Inglaterra. Ao que parece o governo do Tai está estudando cuidadosamente a proposta inglesa. O futuro das relações anglo-tailandesas, em torno da proposta britânica, está merecendo atenção de todos os círculos.

O TAILAND NÃO CEDE À AMEAÇA INGLESA

SHANGHAI, 9 (D.) — As agências noticiosas anglo-americanas propagaram recentemente com insistência o aparecimento de couraça inglês em águas extremo-orientais. Segundo notícias fidedignas, o couraçado que constou ter aparecido no golfo do Siao era o "Warspite", o qual tendo sido grandemente avariado no Mediterrâneo se dirigiu para Singapura, onde entretanto não encontrou material suficiente para o seu reparo. Assim encontra-se atualmente a caminho de uma base norte-americana, via Manila. Aproveitando a sua viagem, o "Warspite" esteve em águas do Tai afim de ameaçar o governo de Bangkok, segundo parece.

O Tailand, entretanto, não cedeu à ameaça pela força nem aos manejos do ministro inglês em Bangkok, sr. Crosby, mantendo inabalável a sua decisão de tomar parte ativa na construção da nova ordem na Asia Oriental.

NÃO HOUVE PROTESTO

BANGKOK, 9 (D.) — Correspondência especial do "Yomiuri". — O governo do Tai desmentiu categoricamente a notícia de que os governos da Inglaterra, Estados Unidos e Chungking tivessem apresentado um protesto pelo reconhecimento do Mandchukuo pelo Tai.

A ATITUDE DOS CÍRCULOS OFICIAIS DE TOKYO

TOKYO, 9 (D.) — Os círculos governamentais desta Capital conservam-se silenciosos quanto às advertências do sr. Cordell Hull e do ministro britânico Anthony Eden contra o Japão no que se refere à Tailândia. Não obstante, o jornal "Kokumin Shimbun" afirma que as insinuações do sr. Cordell Hull e de Eden, de que o Japão ameaça a independência da Tailândia, constituem um assunto demasiado sério para que se deixe passar despercebido. O mesmo jornal termina o seu comentário concitando o governo japonês a romper o seu silêncio e fazer algo que contrabalance as

falsas insinuações anglo-norte-americanas.

INGLESSES E NORTE-AMERICANOS DEIXAM SAIGON

SAIGON, 9 (D.) — Os consules da Inglaterra e dos Estados Unidos aconselharam seus súditos a deixarem a Indochina, logo após o avanço das forças imperiais na Indochina. Ontem, 55 norte-americanos partiram para Manila, a bordo do "Marshall Joffre", da M. M. Em seguida, no dia 11 próximo, 15 mulheres e crianças inglesas, deixaram Saigon a bordo do "Complesta".

DECLARAÇÕES DO ALMIRANTE DECOUX

VICHY, 9 (T. O.) — O gover-

nador geral da Indochina, almirante Decoux, declarou que com a assinatura dos acordos militares entre a França e o Japão sobre medidas de defesa comum na Indochina Francesa, a França havia escolhido o melhor meio possível para garantir a Indochina.

COLABORAÇÃO ECONOMICA NIPO-INDOCHINESA

TOKYO, 9 (T. O.) — "O acordo entre a Indochina e o Japão servirá também para incrementar a colaboração econômica entre os dois países" — afirma hoje o correspondente do "Yomiuri Shimbun", o qual espera que as autoridades indochinesas procedam a enérgica reorganização da vida econômica do país.

A FRANÇA RECONHECERÁ O GOVERNO DE NANKIN

SAIGON, 9 (D.) — Correspondência especial do "Nichi-Nichi". — Com a chegada de forças japonesas ao sul da Indochina, surgiu a questão do reconhecimento do governo de Nankin pela França. As autoridades francesas da Indochina declaram entretanto que a política exterior é da alçada da metrópole e evitam tomar uma atitude definitiva. Os órgãos de Chungking em Choron foram destruídos e há um movimento generalizado para uma cooperação com o Japão e aproximação com o governo de Nankin.

E' inevitável, nestas condições, o reconhecimento do governo do sr. Wang-Ching-Wei pela França e o envio de representante de Nankin à Indochina.

O MINISTRO DA GUERRA FALOU SOBRE A MARCHA DAS FORÇAS IMPERIAIS NA INDOCHINA

TOKYO, 10 (D.) — Os senhores Tanabe, Iwamura, Sakonji e Koizumi, respectivamente ministros do Interior, Justiça, Comércio e Bem Estar Social, ouviram, após o encerramento da sessão ministerial, do general Tojô, ministro da Guerra, uma exposição pormenorizada sobre o avanço das forças imperiais na Indochina.

Odessa e Nikolaieff os próximos objetivos alemães

DENTRO DE BREVES DIAS A GUERRA CHEGARÁ A UM PONTO DECISIVO - ATAQUE AEREO A MOSCOU - 10.000 AVIÕES RUSSOS ABATIDOS - A GUERRA TEUTO-RUSSA ENTROU NA OITAVA SEMANA - OUTRAS NOTICIAS DA GUERRA

BERLIM, 10 (U. P.) — Informantes oficiais deram a entender, ontem à noite, que a cidade de Odessa e a base naval de Nikolaieff são os objetivos imediatos do avanço alemão na frente meridional, e não a cidade de Kiev, que estaria completamente cercada, em consequência da queda de Korosten.

CHEGARÁ A UM PONTO DECISIVO

BERLIM, 10 (U. P.) — Círculos alemães e bem informados alimentam a convicção de que, em breves dias, se chegará a um ponto decisivo na campanha contra a Rússia, acreditando-se que o resultado favorável das operações na Ucrânia, afetará, indubitavelmente, os restantes setores da gigantesca luta.

ATAQUE AEREO A MOSCOU

Quartel General do "Fuehrer" 10 (U. P.) — O Alto Comando informa que ontem à noite, fortes esquadrilhas de bombardeiros alemães realizaram "com particular êxito", um ataque aéreo contra Moscou, provocando enormes incêndios no centro e parte norte da cidade.

10.000 AVIÕES RUSSOS DESTRUIDOS

Quartel General do "Fuehrer" 10 (U. P.) — O Alto Comando informa que desde o dia 22 de Julho a "Luftwaffe" destruiu, em toda a frente oriental, mais de 10.000 aviões russos. **Quartel General do "Fuehrer"** 10 (U. P.) — O comunicado pu-

blicado hoje pelo Alto Comando afirma que as operações contra a Rússia continuam de acordo com o plano traçado.

A GUERRA ENTROU NA OITAVA SEMANA

BERLIM, 10 (U. P.) — A entrada da oitava semana de guerra com a Rússia foi assinalada pelos círculos alemães com a confiança de que as forças do Reich e suas aliadas continuarão esmagando os exércitos russos e internando-se mais profundamente em território inimigo.

DO MAR NEGRO ATE' A FROTEIRA RUSSO-FINLANDESA

MOSCOU, 10 (U. P.) — Ao entrar a guerra na oitava semana, os dois maiores exércitos do mundo se acham empenhados em uma luta de morte, desde o Mar Negro até às nevadas planícies da fronteira russo-finlandesa. Admite-se que nos 50 dias transcorridos, de batalha, a máquina bélica alemã fez indubitáveis conquistas territoriais em todos os setores, exceto no extremo setentrional.

EM MARCHA ACELERADA

BERLIM, 10 (U. P.) — Os círculos militares anunciam que os exércitos alemães estão avançando hoje pela Ucrânia "em marcha acelerada"; porém se abstiveram de fornecer informações concretas, principalmente a respeito das localidades ocupadas.

BERLIM, 10 (U. P.) — Informa-se, em círculos militares,

"BOMBARDEIO PSICOLOGICO"

A tática de guerra de Hitler vista por um comentador militar inglês

N. R. — O trabalho que se segue é do conhecido comentador militar inglês, Rüdiger Heatt, publicado no "World Review".

Trata-se, a nosso ver, de um trabalho bastante significativo em que o autor fazendo a crítica dos aliados reconhece o seu fracasso, embora manifeste algumas opiniões tendenciosas.

"Em caso de guerra é importante o não avaliar demasiadamente pequena a força do inimigo. E' igualmente importante conhecer as maneiras e a psicologia do inimigo. Se, dentro do gabinete de guerra, fosse criado um "ministério de combate ao inimigo", para estudar todos os problemas decorrentes da guerra e os mesmos vistos por parte do inimigo, muito teríamos a ganhar. Porque assim poderíamos prever a ação seguinte do inimigo. Os futuros historiadores estranharão profundamente o fato dos políticos das democracias não terem previsto o curso se-

guido por Hitler. Porque não houve nenhum ambicioso que expusesse todos os cursos e processos especiais a aplicar, com antecedência e com tanta clareza como o chanceler alemão. Hitler fingiu indiferença, expondo todos os seus planos, possivelmente para que os ouvidos não vissem a realidade. A técnica de conservar o sigilo consiste em expor quase tudo, afim de não dar lugar a nenhuma desconfiança sobre a verdadeira intenção. Essas também, a técnica de Hitler.

O coronel Lawrence, falando de Lenin, disse que ele foi o único homem que planejou realizar e consolidar uma revolução. A mesma coisa pode ser dita sobre Hitler. Lenin disse que a melhor tática de guerra consistia em abater o moral do inimigo, dentro do menor tempo possível, evitando a guerra de longa duração. Hitler disse o mesmo em outras palavras: "A nossa verdadeira luta está

Oito nações européias se reunirão em uma conferência

para reforçar a política do "eixo" contra a Inglaterra, Estados Unidos e Rússia

ROMA, 10 (U. P.) — Oito nações européias se reunirão em uma conferência destinada a solidificar o "eixo" contra a Inglaterra, Estados Unidos e Rússia.

Ao que se informou esta noite, é provável que a reunião se realize no decorrer da próxima quinzena, com a participação da Itália, Alemanha, România, Bulgária, Finlândia, Slovaquia e Croácia.

ROMA, 10 (U. P.) — Informam que as razões da próxima reunião das nações européias para reforçar a política do "eixo" prendem-se à crescente atividade dos Estados Unidos e da Rússia e também no atual conflito sustentado contra a Grã-Bretanha.

Em fontes bem informadas soube-se que serão tratados planos para formar um bloco com os exércitos, recursos econômicos, abastecimentos alimentícios, etc., desses países, afim de facilitar a ação da máquina bélica triplice, no caso eventual que os Estados Unidos fiquem envolvidos no conflito, especialmente em virtude da luta que se está travando na Rússia.

Alguns comentaristas opinam que a participação na Finlândia na conferência significa que brevemente esse país aderirá ao pacto triplice. A reunião em questão assinalará a estréia da Croácia no campo da atividade internacional.

O sr. Abetz regressou a Berlim

VICHY, 10 (U. P.) — Notícias de Paris informam que o sr. Otto Von Abetz, representante do governo alemão nessa cidade, regressou a Berlim, juntamente com outros funcionários do governo alemão.

O regresso do general Weygand a Argel

VICHY, 10 (U. P.) — Infor-

ma-se que o general Weygand regressará a Argel no princípio desta semana. Soube-se, entretanto, que não assistirá à reunião que amanhã realizará o Conselho de Ministros.

O Governo francês será remodelado

VICHY, 10 (U. P.) — Círculos políticos locais acreditam ser possível que o Conselho de Ministros adote amanhã alguma decisão referente à organização do Gabinete. Ao mesmo tempo afirmam que além dessa, não será adotada nenhuma outra decisão importante.

Acrescentam que não há nada definitivamente assegurado, embora já estejam concluídas conversações do general Weygand. Soube-se, igualmente, que tudo a respeito da iminente reorganização, mas apenas em seu general Weygand foi consultado representante do governo da África.

Reunião do Ministério

VICHY, 10 (U. P.) — O marechal Pétain convocou o Gabinete para uma reunião extraordinária que realizou-se na tarde de hoje, com a presença de quase todos os membros do Governo. As 17 horas, continuavam a chegar ao Hotel Du Parc, autoridades francesas de Paris, as quais deverão participar na reunião de amanhã, do Gabinete.

O almirante Oikawa no Palácio

TOKYO, 9 (D.) — O almirante Oikawa, ministro da Marinha, foi ontem recebido em audiência por S. M. o Imperador, no Palácio. Após apresentar o relatório dos assuntos de sua pasta e responder às perguntas de S. M., o almirante Oikawa deixou o Palácio.

te favoráveis, Hitler disse a Rauschning:

"Os homens recorrem ao morticínio quando não há mais meios para alcançar o seu objetivo. Mas há a arma da inteligência que é mais ampla. Se houver um processo mais eficaz e fácil eu não recorrerei às armas".

Para compreender o significado da nova direção dada por Hitler à doutrina de guerra alemã, nada melhor do que fazer uma comparação com a doutrina do general Ludendorff. Ludendorff disse que na futura guerra a melhor estratégia consistia em ficar sempre na ofensiva, como ele fez em 1918. Para Ludendorff a ofensiva era o curso da guerra. As metralhadoras, "tanks" e carros blindados protegiam a marcha da infantaria que no final entrava em luta corpo-a-corpo.

Todas as atividades eram dedicadas para essa finalidade. A mecanização do exército não visava senão terminar rapidamente a guerra. Ao que parece, o general Ludendorff não tinha pensamentos claros sobre os outros problemas de guerra, além de sua tese favorita.

(Continua)

O Presidente Getúlio Vargas

recebeu, sabado ultimo, a Embaixada Especial Portuguesa no Palacio Guanabara

Conferida ao chefe da Nação a condecoração de "Banda das Três Ordens" pelo governo luso

RIO, 9 — A Embaixada Portuguesa foi recebida, hoje, pelo presidente Getúlio Vargas no palácio Guanabara, para a cerimônia da entrega das credenciais e da Banda das Três Ordens com que o governo de Portugal condecorou o chefe do governo brasileiro.

Recebidos pelo oficial de dia comandante Angelo Nolasco, foram introduzidos os embaixadores portugueses ao salão de recepção do Guanabara.

O presidente Getúlio Vargas, acompanhado do chanceler Osvaldo Aranha e de todos os membros de seus gabinetes militar e civil, recebeu logo depois a apresentação do embaixador

Julio Dantas, feita pelo chefe cerimonial do Itamarati; seguiu-se a apresentação dos demais membros da Embaixada Especial, sr. dr. Reinaldo dos Santos, dr. Marcelo Caetano, deputado João do Amaral, capitão de fragata Vasco Lopes Gonçalves, major Carlos Afonso dos Santos e dr. Manuel Ferrajota de Rocheta, feita pelo próprio chefe da Embaixada Especial.

discursou o embaixador Julio Dantas, terminando por entregar ao presidente Getúlio Vargas as cartas credenciais de que era portador e a Banda das Três Ordens, acompanhada de uma carta autógrafa do presidente Carmona.

Respondendo à saudação do embaixador português, o presidente Vargas pronunciou um discurso saudando a embaixada e agradecendo a condecoração da "Banda das Três Ordens".

O APARECIMENTO DA "A MANHÃ"

RIO, 9 (A. N.) — Os vespertinos registam o aparecimento, hoje, do matutino "A Manhã", considerando o fato um verdadeiro acontecimento jornalístico.

nas letras brasileiras contemporâneas. "Do ponto de vista técnico, o novo jornal — escreve "A Noite" — veio realizar o tipo de jornal sem dúvida interessante, na paginação e distribuição da matéria, densidade de suas páginas e elegância de seu formato".

Concurso para a carreira diplomática

RIO, 9 (A. N.) — Foram publicadas pelo D. A. S. P. instruções sobre inscrições no concurso para a carreira diplomática. As referidas inscrições estarão abertas a partir de 11 de Agosto, até 9 de Outubro próximo, só podendo inscrever-se brasileiro nato, do sexo masculino, de idade entre 18 a 35 anos apurados até a data do encerramento das mesmas.

A aviação britânica bombardeou Corinto

ROMA, 10 (U. P.) — Noticia oficialmente, que a aviação britânica bombardeou, ontem à noite, a cidade de Corinto, na Grécia.

As perdas italianas no mês de Julho

ROMA, 10 (U. P.) — Noticia-se, oficialmente, que durante o mês de Julho as baixas italianas em todas as frentes, foram as seguintes: 714 mortos, 773 feridos e 800 desaparecidos.

A RUSSIA NÃO RECEBEU NENHUM "ULTIMATUM" DO JAPÃO

MÓSCOU, 9 (U. P.) — O vice-comissário das Relações Exteriores, sr. Lozovsky, declarou que carecem de fundamentos as versões, segundo as quais, o Japão enviara um "ultimatum" à Rússia, exigindo a desmilitarização de Vladivostok e formulando outras exigências com respeito à Sibéria.

Entrada de judeus no Brasil

RIO, 9 — Reuniu-se no Palácio Itamarati o Conselho de Imigração e Colonização sob a presidência do ministro Antonio Camilo de Oliveira, tendo comparecido os conselheiros capitão de fragata Atila Monteiro Ache, major Aristoteles de Lima Câmara, Artur Hehl Neiva, Dulce Pinheiro Machado e Hernani Reis. Estiveram presentes, igualmente, os srs. Antonio Pe-

Recebidos pelo oficial de dia comandante Angelo Nolasco...

dro de Andrade Muller e Henrique Doria de Vasconcelos, observadores, do Estado de São Paulo.

Terminadas as apresentações...

O conselheiro Dulce Pinheiro Machado trouxe ao conhecimento do Conselho estatísticas por memorizadas da entrada de judeus no Brasil nos cinco primeiros meses do ano corrente, cujo total se eleva a 733 entradas. Entre estas se destacam as seguintes nacionalidades: alemães, 252; poloneses, 116; norte-americanos, 81; franceses, 51; argentinos, 38; belgas, 24; húngaros, 22; tchecoslovacos, 20; iugoslavos, 17; italianos, 15; suecos, 14; rumenos, 10; apatriados, 34.

Vitória do Presidente Prudente no Preliminar de Sorocaba

No Campeonato Preliminar de Basebol da região de Sorocaba que está se realizando desde domingo, 10 do corrente, o Presidente Prudente venceu o Alvares Machado por 6 x 5.

O presidente Getúlio Vargas regressou ao Rio, de sua viagem ao Paraguai

RIO, 8 — O presidente Getúlio Vargas regressou, hoje, de sua viagem ao Paraguai e Mato Grosso. Voando no "Lockheed 0-5" em esquadilha com outros dois "Lockheed" da Força Aérea Brasileira, o chefe do governo chegou ao Rio, às 8 horas da manhã, descendo em Petrópolis às 11,30 horas, para re-

Recepção no aeroporto "Santos Dumont"

bastecimento. Meia hora depois, a esquadilha presidencial levantava voo, rumando diretamente para o Rio.

Recepção no aeroporto "Santos Dumont"

No aeroporto "Santos Dumont", o sr. Getúlio Vargas foi recebido por ministros de Estado, presidentes e diretores do Departamento Nacional do Café e de altos chefes de departamentos e numerosas outras pes-

Esta semana será histórica

LONDRES, 10 (U. P.) — A imprensa britânica avisou hoje a população de que deve aguardar, no correr da semana que principiou, decisões importantíssimas que talvez se refiram a novas frentes de batalha e novos planos que influirão radicalmente nos aspectos estratégicos da guerra.

Porque as verduras estão caras

Andamos todos a procurar custos e modos de baratear o custo da alimentação popular, escreveu hoje a "Folha da Manhã". Andamos também a aconselhar ao povo o uso intensivo de verduras, afim de melhorar o seu nível vital.

GABINETE DE INVESTIGAÇÕES

Identificação de estrangeiros. Estão sendo chamados os identificandos de números seguintes:

Fornecimento de aviões norte-americanos a Inglaterra e Russia

WASHINGTON, 9 (U. P.) — Sabe-se que centenas de aviões de caça que haviam sido fabricados para ser entregues a Grã-Bretanha serão transferidos para a Rússia. Ignora-se qual seja o número de aparelhos já a caminho da União Soviética.

Uma bomba explodiu no prédio onde funciona o "Central China Daily News"

SHANGHAI, 9 (U. P.) — Poderosa bomba explodiu hoje, provocando um grande incêndio, no prédio onde funciona o jornal diário "Central China Daily News" órgão de Wang-Ching-Wei.

Recebendo cumprimentos das pessoas presentes...

Recebendo cumprimentos das pessoas presentes, o chefe da nação dirigiu-se para a saída do "hangar" onde parou, afim de receber cumprimentos das delegações de sindicatos operários.

Tomando o automovel, o presidente Vargas se encaminhou para o palácio Guanabara.

Tomando o automovel, o presidente Vargas se encaminhou para o palácio Guanabara.

Fechamento de empresas norte-americanas no Japão

TOKYO, 10 (U. P.) — A "Canadian Pacific Steamship Company", a maior das empresas navais que operava no Pacífico, ordenou o fechamento de todas as suas seções existentes no Japão.

Contra os comerciantes de carne em Porto Alegre

PORTO ALEGRE, — Com o fito de coibir as manobras alistas que vinham sendo ultimamente desenvolvidas pelos marchantes e que ameaçavam deixar a população sem carne verde, o governo do Estado confiou a matança de gado ao Instituto de Carnes.

O marechal Timoshenko teria caído na desgraça do sr. Stalin

PARIS, 10 (U. P.) — O "Paris Midl" insere hoje um despacho de Ankara, segundo o qual o marechal Timoshenko, comandante-chefe das forças russas na frente central, caiu das graças do sr. Stalin, após uma acalorada discussão no Conselho dos Comissários do Povo, durante a qual o sr. Stalin designou seis novos comandantes para substituir os que ele julga incapazes.

CONDOLENCIAS RECEBIDAS PELO SR. MUSSOLINI

ROMA, 10 (U. P.) — O sr. Mussolini continua recebendo mensagens de condolências de todos os governos do mundo. Entre os últimos telegramas chegaram os dos presidentes de Portugal e da Finlândia.

A França e Alemanha não assinaram aliança ofensiva contra a Russia

VICHY, 10 (U. P.) — Nos círculos políticos franceses declarou-se que não foi tomada nenhuma decisão importante durante a série de conferências realizadas na sexta-feira e no

Recebeu o presidente Vargas...

sábado, entre o marechal Pétain, Weigand, Darlan e outros dirigentes franceses.

Recebeu o presidente Vargas...

Alemanha, em suas colônias africanas. Desautorizaram, também, categoricamente a informação procedente de Berna, segundo a qual a França e a Alemanha assinaram uma aliança ofensiva contra a Rússia.

Recebeu o presidente Vargas...

A embaixada dos Estados Unidos informou ao ministro das Relações Exteriores e ao ministro da Fazenda que a União norte-americana está disposta a descongela os fundos dos funcionários japoneses que atuam naquele país, desde que seja acordado um tratamento recí-

Recebeu o presidente Vargas...

proco aos funcionários norte-americanos no Japão. O governo japonês já libertou os fundos britânicos sobre bases idênticas e espera-se que Tokyo aceite a proposta de Washington.

Recebeu o presidente Vargas...

TOKYO, 9 (T. O.) — Comunicou-se que o sr. Cordell Hull conferenciou com o embaixador japonês em Washington, almirante Nomura, tendo a conversação sido efetuada a pedido do sr. Hull, versando sobre assuntos referentes à navegação japonesa.

O embaixador Ishii oferecerá um jantar de gala ao ministro da Guerra

RIO, 8 (A. N.) — O embaixador do Japão no Brasil, sr. Itaro Ishii, oferecerá, no próximo dia 15, na Embaixada do Botafogo, um jantar de gala ao ministro da Guerra, general Eurico Gaspar Dutra.

(Fotos na pág. japonesa).

Presa uma grande quadrilha de ladrões elegantes

Os gatunos agiam nos circuitos elegantes do Rio e São Paulo

RIO, 8 (A. N.) — A polícia carioca acaba de deitar a mão numa grande quadrilha de ladrões elegantes que agiam nesta Capital e em São Paulo. As primeiras prisões foram efetuadas no carnaval passado, no baile do High Life, quando foram apanhados agindo em flagrante os larapíes José Berlitz de Macedo Ribas e Osvaldo Moura, que vinham de São Paulo especialmente para aproveitar a época propícia do carnaval carioca. Por ocasião da corrida do "Grande Prêmio Brasil", uma turma de investigadores da Seção de Vigilância Geral e Captações conseguiu localizar outro grupo da mesma quadrilha, composta dos punhistas Francisco Benitez, Antonio Viggiani Camargo, Abdon Soares e Henrique Schumacker, tendo conseguido fugir Saim Abnajara. Mais tarde, a Polícia conseguiu localizar este último e mais o chefe do bando, Armando Nardelli. Os eriminosos confessaram suas atividades, narrando por menores da sua ação nos elegantes bailes, inclusive no Teatro Municipal.

O Que o Povo Lê

Temos em nosso poder as estatísticas da Biblioteca Pública Municipal e da Biblioteca Circulante relativas ao mês de Julho último. O movimento de consulentes, na biblioteca da rua 7 de Abril, foi de 9.862, tendo sido feitas 15.883 requisições de livros. Os ramos do saber humano que maior procura tiveram, por parte dos consulentes de Julho, foram os seguintes:

Literatura	2.088
História	1.990
Ciências sociais	1.886
Ciências aplicadas	1.847
Ciências puras	1.642

O movimento de consulentes da biblioteca circulante, a qual estacionou durante 13 dias na praça da República e 12 no Jardim da Luz, elevou-se a 1.866, tendo sido feitas 3.387 requisições. Estas obedeceram aos gêneros abaixo:

Revistas	1.681
Literatura	951
História	172

Longe de nós a idéia de tirar conclusões e generalizações das cifras acima reproduzidas. Quer-

A suspensão da importação de seda japonesa nos Estados Unidos está criando um grave problema social

NOVA YORK, 7 (D.) — A suspensão da importação de seda do Japão produziu uma extraordinária afluência de compradores nas lojas de todo o país. A procura é tanta que às vezes se verificam até lutas corporais entre as senhoras. Nas grandes lojas de Nova York, estabeleceram-se cordões de isolamento para evitar confusão. A venda aumenta todos os dias. Nos últimos dias centuplicaram as vendas. O estoque que nos tempos normais duraria dois meses, nas condições atuais esgotará dentro em breve. As lojas estabeleceram quotas de 2 ou 3 pares de meias por pessoa. O governo estabeleceu um preço oficial para os objetos de seda mas o mesmo não é obedecido. Acredita-se que os artigos que custam, atualmente, um dólar, chegarão a cinco dólares, dentro de dois ou três meses. O governo mobilizou senhas de personalidades ilustres para apelar ao patriotismo das mulheres norte-americanas. Mas ao que parece as meias de seda são mais importantes que o chanceler Hitler ou mesmo a democracia. As medidas governamentais não estão dando resultado. O governo resolveu criar um departamento para estudar o problema dos desempregados criados pela supressão do comércio de seda. A interrupção da importação de seda transformou-se num problema social dos Estados Unidos.

Carta de Tokyo

Quais as vias de contágio do mal "Pulmões de Ferro"? — Novo tema de estudo para o mundo das pesquisas científicas — Grande polêmica na reunião geral do Instituto Japonês de Pesquisas Patológicas, na Universidade de Osaka

Saber-se por quais canais de contágio penetra no organismo humano o ultra-microscópico "virus filtravel" que dá origem ao temível mal — a paralisia infantil, que se tornou célebre com o nome de "mal do pulmão de ferro", é um problema que ainda depende de solução por parte da medicina. A via de contágio desse mal, realmente, é um problema que a medicina não resolveu ainda. Entretanto, na 31.ª seção geral do Instituto Japonês de Pesquisas Patológicas, reunida no Salão de Conferências Médicas da Universidade de Osaka, surgiu uma interessante polêmica entre os professores — Dr. Tokushiro Mitamura, da Universidade Imperial de Tokyo e o Dr. Kinya Kawamura, da Universidade de Keio, sobre as vias de penetração do "virus filtravel" no organismo humano, polêmica essa que despertou vivo interesse à grande assistência que se compunha de mais de 500 médicos e cientistas, em sua grande maioria estudiosos do palpitante assunto. Todavia, como nenhum dos polemistas chegasse a um acordo, e sendo o problema sumamente importante, as discussões foram suspensas no fim da reunião, sob a condição de serem retomadas na próxima reunião geral do Instituto de Pesquisas Patológicas que terá lugar no próximo ano de 1942. Na sessão finda, o Prof. Mitamura apresentou seu ponto de vista sob o título "O papel do mosquito segundo estudos e pesquisas efetuadas relativamente às vias de contágio da paralisia infantil". O Prof. Mitamura relatou que, em pesquisas e estudos efetuados por ele no Gabinete de Pesquisas da Universidade Imperial injetou em um macaco uma porção de virus da paralisia infantil trazida da Califórnia, tendo esse macaco ficado completamente acometido do terrível mal. Pôs alguns mosquitos para sugá-lo. Estes mosquitos foram, depois, cuidadosamente conservados em um ambiente aproximado, especialmente preparado com a temperatura de 20 graus centígrado. Cerca de 22 dias depois, esmigalhou esses mosquitos e injetou-os em sete macacos perfeitamente sãos. Em consequência dessas injeções, quatro destes sete macacos foram positivamente acometidos de paralisia infantil, ficando, destarte, provado, o importantíssimo contágio da paralisia infantil. Contrapondo-se a essa tese, foi apresentada outra pelo Prof. Kawamura, da Universidade de Keio. O Prof. Kawamura, baseando-se em longos anos de estudos e pesquisas, afirmou que a paralisia infantil e a meningite cerebral epidêmica penetra através da pituitária e invade o organismo. E faz ver que, sendo tanto esse mal como a paralisia infantil originados por virus, inconstatável à luz dos microscópios, é de certo modo precipitado atribuir-se ao mosquito tão importante papel na transmissão ou contágio, advertindo, ainda, que é necessário encarar-se como importante, também, a via nasal de contágio ou propagação do mal. O Prof. Mitamura concordou plenamente com o argumento de serem ambos os males produtos do "virus filtravel", mas discordou intransigentemente, baseando-se em que os dois males, meningite cerebral epidêmica e paralisia infantil, são completamente diferentes. Deixou, portanto de admitir o ponto de vista do Prof. Kawamura, persistindo no seu, intransigentemente como de princípio. As discussões foram calorosíssimas. Não chegando, porém, ambos a um acordo ou harmonia de pontos de vista, o Prof. R. Ninoshita, reitor da Universidade de Osaka, que presidia a reunião, decidiu que a discussão fosse dada por encerrada até a próxima reunião em 1942, passando-se a outro tema do programa. Embora não tenham chegado a uma conclusão definitiva, a respeito da solução do problema das vias de contágio da paralisia infantil, o problema foi vivo e calorosamente ventilado, passando, deste modo, a ser um assunto palpitante de estudo dos meios científicos. (Do jornal "Osaka Mai-Nichi" de Osaka — 9 de Abril de 1941).

Luta de longa duração

(Fatos diversos) RIO, 7 — Informam de Cambuci, no interior fluminense, que no distrito de Funil, foi descoberta uma grande jazida carbonífera. O fato já foi comunicado ao ministério da Agricultura. NOVA YORK, 8 (U. P.) — O campeão mundial de box da categoria de peso mosca, Fred Cochrane Nuevo, alistou-se na marinha de guerra. Também apresentou-se o ex-campeão de pesos pesados, Gene Tunney, que provavelmente será destacado para o aeródromo de Pensacola, onde desempenhará o cargo de diretor de atletismo.

Os jogos preliminares de Basebol

O Central venceu na região de São Paulo Hachiya, no campeonato da Liga Comercial. No primeiro dia realizaram-se os seguintes jogos: Central, 7 x Oratório, 3. Oratório, 6 x Cotia, 5. O jogo final, realizado domingo, foi movimentadíssimo, entusiasmando os inúmeros "fans" que acorreram ao campo do Tozan (Campo Belo). O resultado desse jogo foi o seguinte: Central, 13 x Cotia, 10. (Publicamos uma apreciação técnica dos jogos na página japonesa).

Marujos japoneses e alemães confraternizam no Rio de Janeiro

Uma interessante oferta dos alemães O "Arizoma Maru", navio da linha africana da Osaka Shosen Kaisha regressou ao Japão recentemente, com atrazo de um mês. O atrazo foi causado por diversas dificuldades encontradas em Capetown e East London. Durante a permanência do navio no Rio de Janeiro, um navio mercante alemão entrou no mesmo porto. Um dos tripulantes do navio nipônico, de nome "Tomekiti Watanabe" resolveu fazer uma visita aos seus colegas do navio germânico, juntamente com mais de 10 companheiros. Os marujos alemães ficaram contentíssimos com a visita dos japoneses e um deles ofereceu a Watanabe um sabre, como lembrança. Esse sabre fóra tomado na batalha de Flandres. No dia seguinte os tripulantes do navio teuto retribuíram a visita. (Clichê na pág. japonesa).

Campeonato Amador de Golf. Entre os dias 25 e 30 do corrente será disputado o Campeonato de Golf, destacando-se, ao mesmo tempo, que o número das inscrições é o menor observado desde 1937. Andrade e a defesa do advogado Medrado Dias. O juiz depois dos debates, concluiu pela condenação dos réus a dois anos de prisão e multa de dez contos.

MIAMI, Florida, 8 (U. P.) — O explorador Lincoln Ellsworth, que acaba de regressar de uma expedição ao Peru, declarou que durante a sua visita à erguera de um vulcão extinto, situado no monte Misti, descobriu sinais inequívocos de vida humana, datando de vários séculos. O sr. Ellsworth acrescentou que é surpreendente a existência de homens habitando semelhante paragem a quasi 6.000 metros de altitude. Disse também o explorador que o vulcão está dando sinais sobre que voltará à atividades, afirmando que observou a exalação de vapores de crateras internas.

Leontina Alves de Oliveira, de 19 anos, residente à rua José Getúlio, 436, cerca das 14 horas do dia 8 do corrente, suicidou-se desfechando um tiro de revolver no ouvido direito. O delegado de serviço na Central, tendo conhecimento da ocorrência, providenciou a remoção do corpo para o necrotério do Gabinete Médico Legal do Araçá. A progenitora de Leontina, interpelada sobre os motivos que a teriam impellido ao suicídio, disse que, há poucos dias, voltou ela tarde para casa, sendo por isso repreendida. No entanto, não manifestou contrariedade, mas deixou de ir ao trabalho, conforme lhe dizia todas as manhãs, para se dirigir a determinado estabelecimento comercial. Naquele dia, Leontina, entrando em casa, parecia esconder alguma coisa, não ligando todavia os parentes importância ao fato. Pouco depois, de um quarto próximo à cozinha, para onde ela fóra, partiu um estalido semelhante ao da explosão de uma espoleta. Uma das irmãs da moça, indo ver o que acontecera, deparou com seu cadáver. A mãe de Leontina afirmou também que não tinha arma alguma em sua casa e que o revolver utilizado, trouxera-o ela de fora. O inquérito instaurado prosseguirá na delegacia do distrito.

RIO, 8 — O Tribunal de Segurança Nacional, julgou, hoje Durval Gonzaga, e João Batista Pulice, denunciados no processo 1.579, de S. Paulo, como incurso na lei que define os crimes contra a economia popular. Os réus organizaram uma companhia de aviação comercial com capital fictício, denominada "Lacus" Linhas Aéreas Cruzeiro do Sul S. A. Depois de vasta propaganda venderam inúmeras ações em São Paulo e apoderaram-se do dinheiro. O inquérito revela aspectos impressionantes da "indústria" criminosa das incorporações de sociedades anônimas fictícias, sem nenhuma base econômica, criada e sustentada pela audácia de aventureiros. A acusação esteve a cargo do procurador Gilberto Goulart de

Cravessuras

12-VIII-1941 Alguem que sonha, mas que não tenha uma certa dose de humor, segundo Lin Yutang, é um fanático. Certo é. Alcança a sabedoria aquele que tem uma dose de realidade, de sonho e de humor. Quem não sonha, é um ser animal, — fala ainda Lin Yutang. E o homem, ser racional, sonha. Sonha, por exemplo, alcançar a felicidade, o ter um nome e um título e ser conhecido numa carreira. Depois dum certo tempo, o sonho vem a se tornar uma ambição — justamente porque o tal, agora ambicioso, perdeu a dose de humor que possuía... Ambicioso e egoísta, o fanático. Os nisei de São Paulo teem um erro que a gente, de modo nenhum, pode considerar como um defeito de suas qualidades: a sua falta de educação social. Dai o serem egoístas. Jymy, um dia, disse que não podia haver casamento entre nisei e nisei, porque a diferença de idades era pequena. Também é porque ainda eles não estão estabelecidos na vida, e porque ninguém se atraveza a se decidir em casar cedo. Uma notinha para Shimpet: não posso acreditar que, alguma vez, longe da gente, você vá se esquecer da gente que nunca se esquece de você. Seja feliz. M.

Quantos peixes há no mar?

TOKYO, Junho. — A paz das tribus aquáticas dos Mares do Japão vem de ser perturbada, desde que o Ministério da Agricultura decidiu fazer o censo de suas populações. A 1 de Maio, o "Aotaja Maru", navio-escola de 250 toneladas, partiu, com um conjunto de homens chefiados por dois técnicos marítimos, srs. Michitake Uta e Yasuo Suehiro, com o fim de fazer uma pesquisa nas fontes de peixes do mar, passando através as águas dos portos de Tokyo, Katuura, em Chiba, Nagasaki, Hamara Seisin; em Chosen, Nanao na prefeitura de Ishikawa, Otaru, Maecka, Hakodate, voltando depois a Tokyo. Aguardam-se informações e numerosas estatísticas; a temperatura da água do mar em diferentes níveis e locais foi registrada, e centenas de peixes foram marcados, para se determinar as rotas de seus movimentos. Os resultados da expedição se-

Impressos ? Procure a tipografia NIPPAK-SHA C. Postal 375 — Tel. 7-3325

O COMÉRCIO INTERESTADUAL

Já foram publicadas as estatísticas referentes ao comércio interestadual por via terrestre, na parte referente à exportação. No que toca à importação, não há dados, porque os Estados vizinhos não organizaram

serviço idêntico ao nosso, que se completaria pela permuta de informações.

Vejamos, e em cotejo com o ano de 1939, o que foi, a esse respeito, o ano de 1940:

	1939	1940	Diferença
1.º trimestre	338.906:239\$	445.729:550\$	116.823:311\$
2.º trimestre	368.237:564\$	418.719:452\$	50.481:888\$
3.º trimestre	394.638:726\$	389.137:850\$	4.900:876\$
4.º trimestre	417.880:475\$	476.272:322\$	58.391:847\$
Total	1.519.063:004\$	1.739.859:174\$	220.796:170\$

Infelizmente, não possuímos dados sobre as importações que São Paulo fez, durante o ano, dos demais Estados, por via terrestre. Ignoramos, assim, se tivemos saldo nesse comércio e, no caso afirmativo, quanto montou.

Temos, porém, um elemento para conjecturas bem fundadas, que não se afastarão muito da verdade. Em 1940, a nossa exportação por cabotagem foi de 1.008.633:106\$ e a nossa importação de 631.872:406\$, com um saldo de 376.760:614\$. A importação representa 63 por cento da exportação. Aplicada esta mesma porcentagem à quantidade de 1.739.859:174\$ da exportação por via terrestre, acharemos a quantidade de 1.096.111:170\$ co-

mo representativa da importação, com um saldo de 643.748:000\$.

Some-se este saldo provável do comércio por via terrestre ao saldo conhecido do comércio por via marítima e teremos:

643.748:000\$
376.760:614\$

1.020.508:614\$

No comércio internacional, os saldos da balança comercial são existentes em favor dos países devedores, procuram compensar as remessas correspondentes ao serviço de juros e amortizações da dívida pública e particular, aos lucros das empresas estrangeiras, às transferências de turistas, imigrantes, etc. No co-

mércio interestadual, estamos vendo como tendem a equilibrar as saídas do produto dos impostos e taxas federais, que de outra forma não teriam retorno, dado que as despesas da União são insignificantes comparadas às suas receitas em São Paulo. Sem estes saldos, a economia paulista, privada anualmente de mais de um milhão de contos, se dessanguaria até a inanidade.

Temos, é verdade, outra fonte de vida: o comércio internacional. Em 1940, Santos exportou 2.445.093 contos e importou 2.069.730 contos. O saldo arduo, de 375.363 contos, serviu para compensar as remessas que fazemos, seja em impostos federais, seja em juros e amorti-

zações, seja sob qualquer outra forma. Na verdade, sai uma coisa pela outra e se São Paulo se enriquece, não é com tais saldos, que se anulam nas remessas, é com a sua produção que cria mercadorias, isto é, riquezas.

A riqueza não nasce dos saldos da balança comercial, que retornam sempre por outros caminhos. Nasce, sim, da diferença para mais entre o custo de produção e o preço de venda. São Paulo precisa cuidar, pois de produzir economicamente, de modo que cada produtor tenha lucros e esses lucros se somem na prosperidade geral.

(“Folha da Manhã”, 1-8-41).

Redução do numero de navios entrados no porto de Santos

SANTOS 6 — No mês passado o porto acusou o menor movimento de entradas de embarcações depois da guerra — 212 embarcações com 427.128 toneladas.

Entretanto, o fato não representa um decréscimo de mês para mês, conforme o quadro abaixo, referente ao primeiro semestre do ano:

Mês	Embarcações	Tonelagem
Jan.	232	451.447
Fev.	217	428.819
Mar.	247	490.084
Abril	223	468.481
Mai	218	443.430
Junho	216	439.983

A oscilação no movimento foi registrada também durante todo o ano passado, de modo que os algarismos de Julho último, não são indicativos da continuação do declínio.

Quanto ao tráfego do mesmo mês, aqueles totais estiveram assim distribuídos:

Bandeira	Embarcações	Tonelagem
Brasileira	138	183.480
Espanhola	5	20.037
Inglês	8	25.605
Japonesa	6	26.960
Americana	19	103.043
Norueguesa	11	32.758
Sueca	8	10.442
Diversas	17	24.803
Total	212	427.128

sardinhas. A sobremesa daria 37.000.000 de libras de ameixas, mais 40.000.000 de libras de pessegos e de maçãs. O açúcar, para adoçar o café e as guloseimas corresponderia a 350.000.000 de libras. O café equivaleria a 75.000.000 de libras de pó e a 200.000.000 de latas de leite evaporado.

O total das despesas alimentares do citado Exército Expedicionário, em 1917-1918, subiu a 727.092.430, 44 dólares. Isto deu para a compra de 3.777.500.000 libras de alimentos para cerca de 4.000.000 de homens (2.000.000 por ano) em dois anos.

O novo exército estadunidense é mais bem alimentado do que o de 1917-1918. Agora, seu alimento apresenta valor nutritivo superior ao ingerido por 65 por cento da população norte-americana. Os recrutas, ao chegar de suas casas aos campos de treino, ganham uma libra de peso por dia, nos seus primeiros quatro dias de estada nos postos de arrematação. O treino e o exercício, queimando-lhes a energia, reduzem esta proporção de ganho em peso; mas é certo que a dieta militar norte-americana aumentou entre cinco e trinta libras o peso dos que chegaram sub-nutridos sofrendo as consequências de refeições desequilibradas e dos pratos engulidos às pressas nos restaurantes automáticos.

Cada homem, no atual exército de Tio Sam, come cerca de 5 libras de alimentos por dia, ou cerca de uma tonelada por ano. O custo disto sobe de ...

A Guerra e o Comércio Exterior de S. Paulo

São Paulo, não obstante as dificuldades atualmente existentes à normalidade de seu intercâmbio comercial com a Europa, não tem sérias razões de queixa, no tocante ao seu escambo de produtos com o exterior, no começo deste ano.

Segundo a opinião de vários círculos econômicos do Estado, o ano comercial em curso seria ainda pior quanto as nossas exportações e importações, do que o de 1940. Estamos como não se ignora, sendo espectralmente da destruição sistemática da marinha mercante dos povos beligerantes da Europa. Os meios de transporte transoceânico escasseiam cada vez mais, a navegação pelo Atlântico torna-se mais e mais perigosa e insegura, e a frota mercante brasileira não é de molde ainda a dar vazão a toda a produção brasileira exportável. Sendo assim, e dados os transtornos ao comércio mundial, teríamos que contentar-nos com um movimento exportador e importador ainda mais limitado de que o do período que veio de encerrar-se.

Sem embargo dos óbices existentes, continuamos a vender e a comprar, não na escala em vigor antes do conflito europeu, mas pelo menos em proporções que, até ao presente, não desorganizaram o nosso intercâmbio com o estrangeiro. Se admitirmos esse fato ao incremento de nossa circulação de produtos,

no mercado interno do Estado e da nação, compreenderemos, alguns dos motivos essenciais, em obediência aos quais o Brasil atravessou todo o ano de 1940 e o início do presente com relativamente pequenos abalos em sua estrutura econômica.

Realmente, o nosso ritmo exportador assim se materializou, de Janeiro a Março de 1941, quando feito o cotejo com os trimestres precedentes:

Anos	Peso líquido em Quilogramas	Valor a bordo em Porto Santos Mil réis
1937	255.774.611	503.967:942\$
1938	309.795.003	495.494:888\$
1939	338.512.989	547.728:711\$
1940	301.013.352	519.959:040\$
1941	281.605.547	640.677:513\$

Exportamos em 1941, como se vê, em volume, um pouco menos do que em 1940. Em compensação, o valor médio da tonelada exportada subiu, permitindo-nos maior rendimento em contos pela nossa corrente exportadora.

Em matéria de importação tivemos que limitá-la, a exemplo de quasi todos os povos latino-americanos, que se viram forçados a tomar idêntica atitude. E' o que nos revela este outro quadro:

Anos	Peso líquido em Quilogramas	Valor a bordo em Porto Santos Mil réis
------	-----------------------------	--

Anos	Quilogramas	Mil réis
1937	340.333.577	448.600:55\$
1938	428.259.754	608.149:124\$
1939	417.729.905	474.657:616\$
1940	394.347.891	662.920:179\$
1941	272.833.929	467.741:129\$

O movimento importador bandeirante foi o menor do último lustro, em volume. Acreditamos mesmo que se as condições, no segundo semestre de 1941, não forem favoráveis a um surto maior de nossas vendas, seremos obrigados, no setor da importação, manter a diretriz assumida no trimestre inicial do ano.

Resumindo, podemos declarar que não temos motivos para encerrar imediatamente o comércio internacional paulista com pessimismo. O café e o algodão, que são os nossos dois produtos-chave, continuam a sair para os mercados externos. A política de boa vizinhança, política e econômica, adotada pelos Estados Unidos, e seguida pela totalidade das nações americanas, deve ser apontada como o fator número um, responsável pelo estado de coisas atual. Não contásemos, nesta hora difícil para o comércio de todos os povos, com essa válvula de escape, que são os centros consumidores do Novo Mundo, e, por certo, a nossa conjuntura econômica seria outra, muito diversa da que estamos agora comentando.

(“Diário de S. Paulo”, 6-8-41).

O CARVÃO NACIONAL

A produção brasileira de carvão de pedra, em 1940, foi sensivelmente inferior à estimativa feita pelo Serviço de Estatística da Produção Mineral do Ministério da Agricultura. A produção estimada era de 1.350.000 toneladas, se a real ascendeu recentemente e revelam particularidades interessantes. O Estado de São Paulo que somente em 1940 entrou nas estatísticas de produção de carvão de pedra, apresenta já um alto valor para o custo médio da tonelada, superior mesmo a um dos antigos Estados produtores, como se pe-

de ver, através da seguinte relação:

ESTADOS	PREÇO MÉDIO
Paraná	91\$400
Rio Grande do Sul	42\$500
São Paulo	49\$900
Santa Catarina	40\$700

O Estado do Paraná, que apresenta o carvão de mais alto valor, no mercado nacional, começou praticamente a produzir em 1931 quando contribuiu para o consumo nacional com cerca de 6.000 toneladas. Desapareceu, porém, das estatísticas, a produção paranaense nos anos de 1935, 1936 e 1937, voltando a figurar

em 1938 com apenas 264 toneladas, e apesar de ter produzido em 1939, 9.025 toneladas. Santa Catarina, vem aumentando desde 1931, sua produção carbonífera, tendo-se registrado em 1937 uma queda sensível; verificou-se porém nos anos seguintes uma vigorosa reação, mantendo-se porém baixo o preço médio da tonelada. O Rio Grande do Sul, duplicou num quinquênio sua produção, concorrendo em 1940 com cerca de 90% da produção nacional. O quadro seguinte por menção a produção de carvão nacional, segundo os Estados, no quinquênio de 1936-1940.

Unidades:	1936	1937	1938	1939	1940
Estado de S. Paulo:					
Toneladas	—	—	—	—	2.402
Contos	—	—	—	—	128
Estado do Paraná:					
Toneladas	—	—	264	1.768	2.777
Contos	—	—	11	71	251
Estado de Sta. Catarina:					
Toneladas	187.167	106.078	171.010	204.181	265.638
Contos	6.838	4.623	7.651	8.604	10.800
Estado do R. Grande do Sul:					
Toneladas	525.029	656.711	785.950	841.026	1.065.481
Contos	26.564	35.431	40.635	45.613	61.308
Totais:					
Toneladas	662.196	762.789	907.224	1.046.975	1.336.301
Contos	32.902	40.054	48.297	54.288	72.478

(“Monitor Mercantil”)

O que comem os soldados norte-americanos

Curiosidades e notas instrutivas a respeito da quantidade, da qualidade, do preço e da eficiência da alimentação que está sendo proporcionada ao novo Exército dos Estados Unidos:

Um caprichoso oficial de intendência do exército norte-americano deduziu que, se fosse possível imaginar a Força Expedicionária Estadunidense, que rumou para a França, em 1917-1918, como um homem ún-

co, ao invés de o fazer como um conjunto de 2.000.000 de homens — e que, se fosse possível servir, em proporções equivalentes, numa única refeição, tudo o que esse gigantesco homem comeu no país de Cleménciau, o seu cardápio constaria mais ou menos do seguinte:

8.000.000 de libras de carne assada; 15.000.000 de libras de presunto; 1.000.000 de libras de pão; 17.500.000 libras de man-

Meyer Berger

teiga; e 11.000.000 de libras de óleo-margarina. O prato marginal seria de 150.000.000 de libras de feijão. Os vegetais, para acompanhar esta refeição, incluíram 487.000.000 de libras de batatas; 40.000.000 de libras de cebolas; 150.000.000 de latas de farinha de trigo, de ervilhas e de vagens de feijão; 180.000.000 de latas de tomate. A salada compreendia 50.000.000 de latas de salsão e 750.000 latas de

Algodão exportado pelo Estado de Pernambuco

RIO, 7 — Durante a safra algodoeira de 1940-41 o Estado de Pernambuco exportou 7.042.767 quilos de algodão, no valor de 16.144:730\$734, para os portos de Nova York, Boston, Haifong, Shanghai, Liverpool, Kobe e Barcelona, e para os Estados do Rio Grande do Sul, São Paulo, Santa Catarina e Alagoas.

Os maiores compradores foram os EE. UU. e a Indochina Francesa com os totais respectivamente, de 2.184.710 e 1.696.083 quilos. Pelo porto de Recife foram também exportados 6.252.395 quilos de algodão, produtores dos Estados da Paraíba, Alagoas, Rio Grande do Norte e Ceará.

750.000 dólares por dia, e, ao fim de um ano, chega a 273.750.000 dólares.

Um oficial do exército norte-americano calculou que o fornecimento anual de café, para as forças de terra da República do sr. Roosevelt, daria uma xícara para a população total dos Estados Unidos, do império britânico, da China e de todos os países absorvidos pelo “eixo” — e ainda sobriariam cinquenta xícaras para cada soldado de Tio Sam. O total seria de cerca de 1.569.000.000 de xícaras.

As refeições dos soldados norte-americanos se modificam, como é normal, de acordo com o clima em que eles atuam. No Alasca, em consequência do frio, a sua porção de carne é superior em 10 por cento à do soldado que serve em zona temperada; a ração de presunto é um terço maior; os vegetais correspondem a um quinto a mais.

A carne de peru, ou um seu equivalente, entra na ração do soldado norte-americano, em dois dias por ano, por ordem pessoal do presidente Roosevelt. Esses dois dias são o de Natal e o de Ano-Bom. A ração tem um peso que oscila entre 20 e 28 onças.

(Continua)

PROIBIDA A EXPORTAÇÃO DE FEIJÃO PRETO NO RIO GRANDE DO SUL

PORTO ALEGRE, 8 — Tendo em vista as dificuldades que a

O Brasil é quarto produtor mundial de fumo

RIO, 7 — O Brasil é um dos maiores produtores de fumo do mundo e ocupa o 4.º lugar entre os principais. Com a situação atual, de inteiro afastamento dos mercados europeus, diminuiu, no ano passado, o volume da nossa exportação, que chegou a atingir, em 1939, quantidade superior a 34 mil ton. e rendeu ao nosso país a importância de 95.784:000\$000.

Até o ano passado, o principal comprador de fumo brasileiro era a Alemanha, com aquisições anuais superiores a 30.000 toneladas.

Em 1938, por exemplo, exportamos para aquela nação, 440.000 ton. e meia de fumo em folha. Outro grande mercado que a guerra desviou das nossas fontes de produção foi a Holanda, que consumia, anualmente, a média de 10 a 16 mil ton. de fumo brasileiro.

Entretanto, entre os novos compradores principia a figurar nas nossas estatísticas a Espanha, que iniciou com a encomenda de 1 1/2 tonelada em 1937 e já nos compra cerca de quatro mil quilos por ano.

elevação do custo da vida vem causando ao operariado e às classes menos favorecidas, o governo do Estado sulino baixou um decreto proibindo a exportação de feijão preto para fora do Rio Grande do Sul.

Diretoria da filial do C. A. C. em São Paulo

A diretoria da filial do Clube Atlético Colonial em São Paulo ficou assim constituída:

Presidente — C. Nomura.
Vice-presidente — K. Shimomoto.

Diretores — G. Hara, M. Esashika, S. Tanabe, E. Okada, S. Inoue e H. Uchimi.

Diretores sectionais: São Paulo — N. Ishida. Mogi das Cruzes — R. Kuwabara.

Itaquera — S. Inui. Suzano — T. Suzukayama. Selsel — Y. Miyata.

Técnicos de atletismo: N. Ishida, S. Mine, E. Okada, G. Ebina.

Técnicos de baseball: T. Nakabayashi, T. Hongo, T. Sasahara e M. Yoshida.

ÓLEO COMBUSTIVEL PARA TRATORES EMPREGADOS NOS TRABALHOS DA LAVOURA

Estando a Secretaria da Agricultura empenhada em obter do conselho Nacional do Petróleo o fornecimento de óleo combustível, indispensável ao trabalho dos tratores empregados no preparo do solo para as plantações do corrente ano, solicita a

todos os fazendeiros possuidores desses veículos, que se comuniquem com a referida Secretaria, até o dia 20 do corrente, dando informações detalhadas quanto à marca do trator, potência, consumo de combustível e área de terra a ser trabalhada.